

令和2年度 市民大学前期講座プログラム

≪ 人間理解コース ≫ 「 認知症とともに～安心して暮らせる社会づくり～ 」

**1 趣旨** 認知症は誰もが発症しうる身近な病気です。2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人に達すると見込まれています。また、65歳未満で認知症になる人たちもおられます。認知症になっても自分らしく、安心して暮らし続けることができる社会づくりを考えます。認知症をよく理解すること、当事者の思いを尊重すること、どのような関わりが大切なのか。それぞれの先駆的な取り組みが全国に注目されている実践者から学びます。

**2 学習方法** 前期：講義 ※後期ゼミナールは実施しません。 **3 曜日・時間** 土曜日 午後1時～3時

**4 講座コーディネーター** みどり病院院長兼認知症疾患医療センター長 成瀬 聡、新潟日報社読者局次長 阿曾晋

**5 プログラム・指導講師**

回	月日	テーマ	内容	講師
1	6/13	認知症の基礎知識と新潟県の現状	認知症はどんな病気なのでしょうか。アルツハイマー病をはじめとする認知症の基礎知識とさまざまに現れる症状、医療・介護についての理解を深め、新潟県の現状も学びます。	みどり病院院長兼 認知症疾患医療センター長 成瀬 聡
2	6/20	優しさを伝えるケア技法～ユマニチュード～	「ユマニチュード」は、人間らしさを取り戻すというフランス語の造語であり、本人の意思や尊厳を大切にしたいケア技法の一つです。認知症の方との効果的な接し方を考えます。	ユマニチュード®認定 インストラクター 株式会社エクサウィザーズ所属 金沢 小百合
3	6/27	認知症の在宅医療～チーム医療・チームケアと家族療法～	認知症の方本人と日々介護する家族を全方位から支えるためのチーム医療・チームケアと家族療法の実践を学びます。	たかせクリニック 理事長 高瀬 義昌
4	7/4	「認知症の人と家族の会」40年の歩みと、「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」	孤立することなく認知症とともに生きることを目標としてきた「認知症の人と家族の会」の活動を知るとともに、講師が考案した「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」について学びます。	認知症の人と家族の会 副代表理事 神奈川県支部代表 川崎幸クリニック 院長 杉山 孝博
5	7/11 (公開)	希望と尊厳をもって暮らし続ける～認知症当事者からの発信～	「一足先に認知症になった」当事者たちが体験や思いを社会に発信する動きが広がっています。講師による認知症本人ワーキンググループの活動紹介と、講師・当事者・パートナーによる鼎談を通じて、認知症の方が住み慣れた地域で希望と尊厳をもって暮らし続けられる社会づくりについて考えます。当事者は、厚生労働省から認知症への理解を深めるため啓発を行う「希望大使」に任命されています。	認知症介護研究・研修東京センター研究部部長 永田 久美子 日本認知症本人 ワーキンググループメンバー・「希望大使」 柿下秋男 パートナー 柿下房代
6	7/18	「注文をまちがえる料理店」～その理念と広がり～	認知症の方々がホール従業員を務めるイベント「注文をまちがえる料理店」が注目されています。働くことを通じて社会とつながり、間違えても「ま、いっか」と受け止める。そんな、おらかな気分をつくる取り組みがなぜ生まれたのでしょうか。理事長の講師が福祉の現場で培ったその理念と、活動の広がりについて学びます。	一般社団法人 「注文をまちがえる料理店」 理事長 和田 行男
7	7/25	認知症治療の未来～アルツハイマー病創薬の現場～	アルツハイマー病の発症メカニズムの解明研究やバイオマーカー研究など、国立長寿医療研究センターの取り組みを知り、認知症の予防・治療の未来について学びます。	国立長寿医療研究センター 研究所長 柳澤 勝彦
8	8/1	「農の福祉力」～農福連携の実践と農業県・新潟の可能性～	農業を通じて認知症の方の心身状態が改善した事例などを紹介。全国に広がる「農福連携」の実践から、農業県・新潟の可能性を探ります。	JA 共済総合研究所主任研究員、 日本農福連携協会顧問 濱田 健司
9	8/29	認知症カフェと地域変革～意義と運営の実際～	認知症カフェは認知症の当事者や家族、地域の人々が不安な思いや楽しみを分かち合い交流するカフェスタイルの場です。発祥のオランダなどの取り組みを聞き、その哲学や意義・運営の実際について学びます。	認知症介護研究・研修仙台センター研究部部長 矢吹 知之
10	9/5	安心して外出できる見守りの町づくり～大牟田市「認知症 SOS ネットワーク模擬訓練」の実践～	福岡県大牟田市は全国に先駆けて、地域を巻き込んだ「認知症 SOS ネットワーク模擬訓練」に取り組んできました。認知症の方が安心して外出できるよう、地域の理解と支えを広げた多様な活動について学びます。	大牟田市認知症 ライフサポート研究会 小規模多機能ホーム いまやまの家ホーム長 梅崎 優貴

回	月日	テーマ	内容	講師
1	6/12	「認知症フレンドリー社会」	なぜ認知症フレンドリー社会が求められるのか、国内外の実践例を紹介していただきます。	認知症フレンドシップクラブ理事・東京事務局代表 徳田 雄人
2	6/19	優しさを伝えるケア技法～ユマニチュード～	「ユマニチュード」は、人間らしさを取り戻すというフランス語の造語であり、本人の意思や尊厳を大切にされたケア技法の一つです。認知症の方との効果的な接し方を考えます。	ユマニチュード®認定インストラクター株式会社エクサウィザーズ所属 金沢 小百合
3	6/26	認知症の在宅医療～チーム医療・チームケアと家族療法～	認知症の方本人と日々介護する家族を全方位から支えるためのチーム医療・チームケアと家族療法の実践を学びます。	たかせクリニック 理事長 高瀬 義昌
4	7/3	「認知症の人と家族の会」40年の歩みと、「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」	孤立することなく認知症とともに生きることを目標としてきた「認知症の人と家族の会」の活動を知るとともに、講師が考案した「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」について学びます。	認知症の人と家族の会 副代表理事 神奈川県支部代表 川崎幸クリニック 院長 杉山 孝博
5	7/10 (公開)	希望と尊厳をもって暮らし続ける～認知症当事者からの発信～	「一足先に認知症になった」当事者たちが体験や思いを社会に発信する動きが広がっています。講師による認知症本人ワーキンググループの活動紹介と、講師・当事者・パートナーによる鼎談を通じて、認知症の方が住み慣れた地域で希望と尊厳をもって暮らし続けられる社会づくりについて考えます。当事者は、厚生労働省から認知症への理解を深めるため啓発を行う「希望大使」に任命されています。	認知症介護研究・研修東京センター研究部部長 永田 久美子 日本認知症本人ワーキンググループメンバー・「希望大使」 柿下秋男 パートナー 柿下房代
6	7/17	「注文をまちがえる料理店」～その理念と広がり～	認知症の方々がホール従業員を務めるイベント「注文をまちがえる料理店」が注目されています。働くことを通じて社会とながら、間違えても「ま、いっか」と受け止める。そんな、おらかな気分をつくる取り組みがなぜ生まれたのでしょうか。代表理事長の講師が福祉の現場で培ったその理念と、活動の広がりについて学びます。	一般社団法人「注文をまちがえる料理店」 理事長 和田 行男
7	7/24	認知症医療のイノベーション～認知症の診断、予防、治療に対する新しい考え方～	先端技術の進歩により認知症の早期診断が可能となり、個人に応じた予防法や治療法が実用化されつつあります。最新の研究成果を紹介し、認知症医療の近未来を考えます。	新潟大学 脳研究所 教授 池内 健
8	7/31	「農の福祉力」～農福連携の実践と農業県・新潟の可能性～	農業を通じて認知症の方の心身状態が改善した事例などを紹介。全国に広がる「農福連携」の実践から、農業県・新潟の可能性を探ります。	JA 共済総合研究所 主席研究員、日本農福連携協会顧問 濱田 健司
9	8/28	認知症カフェと地域変革～意義と運営の実際～	認知症カフェは認知症の当事者や家族、地域の人々が不安な思いや楽しさを分かち合い交流するカフェスタイルの場です。発祥のオランダなどの取り組みを聞き、その哲学や意義・運営の実際について学びます。	認知症介護研究・研修仙台センター研究部部長 矢吹 知之
10	9/4	安心して外出できる見守りの町づくり～大牟田市「認知症 SOS ネットワーク模擬訓練」の実践～	福岡県大牟田市は全国に先駆けて、地域を巻き込んだ「認知症 SOS ネットワーク模擬訓練」に取り組んできました。認知症の方が安心して外出できるよう、地域の理解と支えを広げた多様な活動について学びます。	大牟田市認知症ライフサポート研究会 小規模多機能ホーム いまやまの家ホーム長 梅崎 優貴